

# TEAC

ティアック株式会社

平成25年3月期 **事業報告**

## 第65期 当社をとりまく環境の変化

### ■ 経済環境の変化

わが国経済は、震災からの復興需要等を背景として、緩やかな回復傾向にあるものの、海外経済の減速や円高の影響を受け低調な動き

政権交代を機に経済政策への期待感から景気回復への期待高まる

海外では欧州の財政問題や中国などの経済情勢への懸念などから、先行き不透明

### ■ 当社の対応

売上高は減収ながらも営業利益、経常利益は増益

米国販売子会社及び欧州販売子会社の繰延税金資産の一部取崩しが発生したため、当期純損失を計上

### 第65期 当社をとりまく環境の変化

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災からの復興需要等を背景として、緩やかな回復傾向にあるものの、海外経済の減速や円高の影響を受け低調な動きでしたが、政権交代を機に経済政策への期待感から景気回復への期待も高まっております。一方、海外では欧州の財政問題や中国などの経済情勢への懸念などから、先行きは不透明な状態が続きました。このような状況の中で、当社グループは収益性の改善と光ディスクドライブ事業の改革を方針とした事業計画の下、当連結会計年度の連結売上高は22,236百万円（前期比16.7%減）と減収となりましたが、米国における光ディスクドライブに関する集団訴訟の訴訟費用の発生があったにもかかわらず、営業利益は693百万円（前期比104.9%増）、経常利益は351百万円（前期比331百万円増）と増益となりました。一方、米国販売子会社及び欧州販売子会社の繰延税金資産の一部取崩しが発生したため、当期純損失は323百万円（前期当期純利益89百万円）となりました。

## 第65期 音響機器事業の状況



## ■ 高級AV機器 (ESOTERICブランド)

SACDプレーヤー、アンプ等の新製品、高額輸入品が好調であり、増収増益

## ■ 一般AV機器 (TEACブランド)

PCオーディオ関連製品が日本を中心に好調、新製品も好評であり、営業黒字化

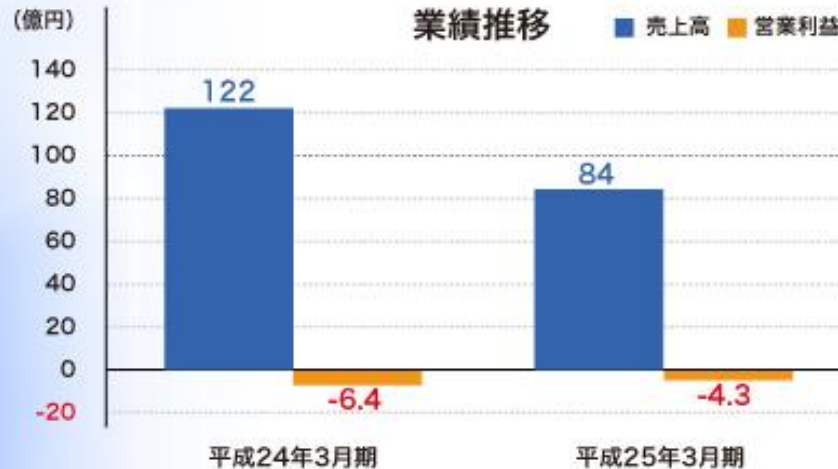
## ■ 音楽制作オーディオ機器 (TASCAMブランド)

日本を中心に設備音響機器、放送局向け機器好調。景気停滞により米国での販売減少  
音響機器全体で減収、営業利益増

## 第65期 音響機器事業の状況

音響機器事業の売上高は12,616百万円（前期比6.4%減）となり、営業利益は1,091百万円（前期比9.4%増）となりました。高級AV機器（ESOTERICブランド）は、SACDプレーヤーの販売が引き続き堅調に推移し、また、期中に投入したクロックジェネレーター、インテグレートッドアンプの新製品に加えて高額輸入品も好調に推移しました。一般AV機器（TEACブランド）は、PCオーディオ関連製品が引き続き日本を中心に好調に推移し、期中に投入した新製品リファレンス501シリーズも好評を博し、販売が拡大しました。音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）は、日本を中心に設備音響機器、放送局向け機器は好調に推移しましたが、下半期は盛り返したものの上半期の景気停滞により米国での販売が減少しました。この結果、音響機器事業全体では、欧米での景気の停滞に加え、欧州におけるオンキヨー ヨーロッパ エレクトロニクス GmbHへの事業譲渡による商流の変更により前期と比較して減収となりましたが、日本市場での販売拡大に加え、オンキヨー株式会社との業務提携による効果もあり、増益となりました。

## 第65期 情報機器事業の状況



航空機搭載用記録再生機器は安定、医用画像記録機器も堅調、計測機器はデータレコーダーの新製品にて増収

センサーは、半導体製造装置向けロードセルの復調の兆しだが減収

光ディスクドライブは、収益性の低いPC向け販売を抑制、需要減により大幅な減収、米国における集団訴訟の費用も影響

情報機器全体で減収、営業赤字減

Copyright 2013 TEAC CORPORATION All Rights Reserved

## 第65期 情報機器事業の状況

情報機器事業の売上高は8,470百万円（前期比30.7%減）となり、営業損失は431百万円（前期営業損失640百万円）となりました。航空機搭載用記録再生機器は安定した販売を維持し、前期とほぼ同様の結果となりました。計測機器は第4四半期に投入されたデータレコーダーの新製品が好調に販売を伸ばし、前期比45%の増収となりましたが、センサーは半導体製造装置向けロードセルに関して第4四半期に入り復調の兆しが見えたものの、前期比では減収となりました。医用画像記録機器の販売は堅調に推移し、前期並みとなり、通話録音機器はIT不況の影響を受けながらも堅調に推移しました。ソリューションビジネスも前期並みでの推移となりました。光ディスクドライブは、収益性の低いPC向け販売を抑制したことに加え、市場の需要減により、大幅な減収となりました。また、米国における集団訴訟に関する費用が予想を大幅に超えたことから業績に大きな影響を与えることとなりました。この結果、情報機器事業全体では、光ディスクドライブ事業の縮小により、前期と比較して減収となりましたが、赤字幅は縮小しました。

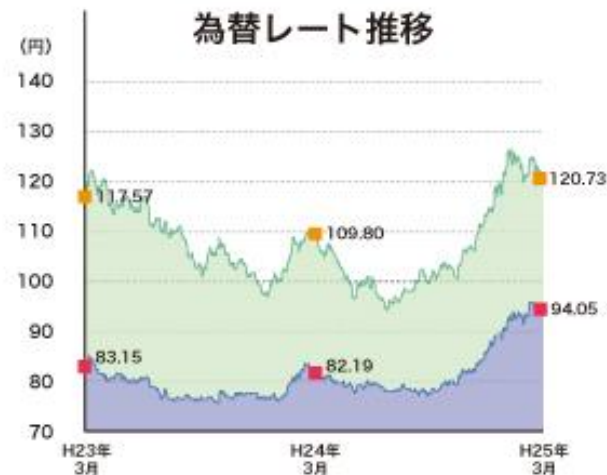
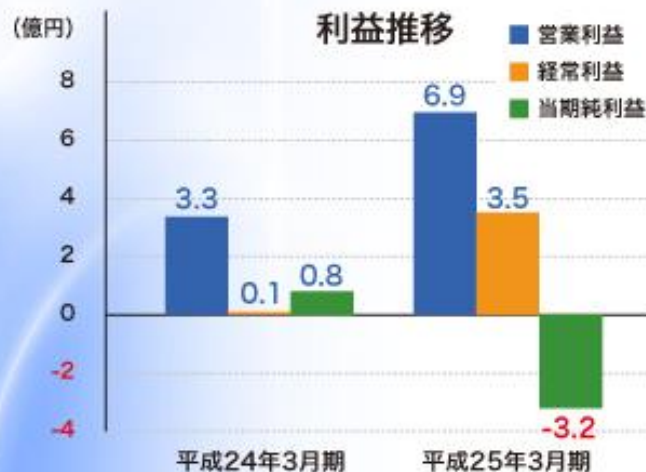
## 第65期 全社の状況



## ■ 売上高

収益性の低いPC向け光ディスクドライブを販売抑制したこと等により減収

## 第65期 全社の状況



- 営業利益： 104.9%増
- 経常利益： 1,747.4%増
- 当期純損失：繰延税金資産の取崩等により損失を計上

- EU € 期末日
- US \$ 期末日
- EUR平均(PL換算)
- USD平均(PL換算)

## 対処すべき課題

当社は前期にオンキヨー株式会社と資本・業務提携を締結しました。それぞれのブランド力、販売力、技術力、生産力を相互補完し、両社の販売拡大、製品付加価値の向上、製品競争力強化や新市場の開拓などにより、安定した業績の実現を目指します。

当期においては、販売、設計、購買・生産・物流、情報システムの分野にて協業の基礎を構築しました。次期以降はさらなる収益性の向上と企業価値の向上を目指します。

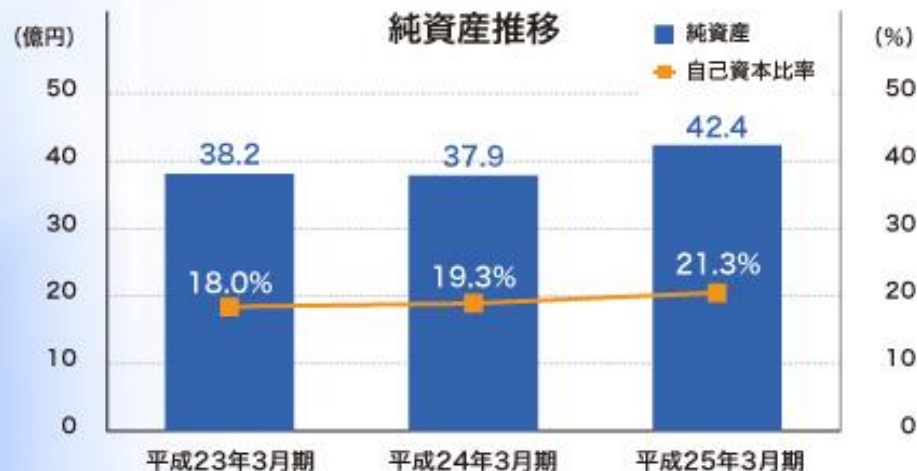
当社は新たにGibson Guitar Corp.と資本・業務提携を締結し、子会社となりました。Gibsonのグループ会社としての経営上のノウハウや資源を共有し、両社の提携を通じて国際競争力を向上させることにより、企業価値の最大化を目指します。

## Gibson Guitar Corp.との業務提携

- 販売の拡大に向けた両社の販売チャンネルの相互利用による世界的規模の販売活動に関する協力
- 両社の成長に向けたアジア市場における販売の拡大に関する協力
- 楽器、音楽制作オーディオ機器、一般AV機器、アプリケーションソフトのすべてが融合された製品群の共同開発
- 両社のグローバルサプライチェーンの統合による効率化、収益率の向上



## 第65期 連結貸借対照表 - 純資産



## ■ 第65期末の自己資本比率は21.3%

当期純損失323百万円を計上したが、円安に伴う海外子会社の純資産の増加により純資産額は増加

自己資本比率は2.0ポイント増加

## 第65期 連結株主資本等変動計算書

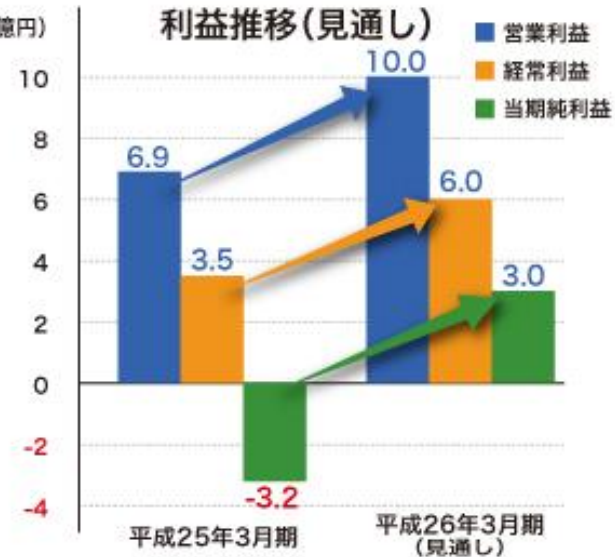
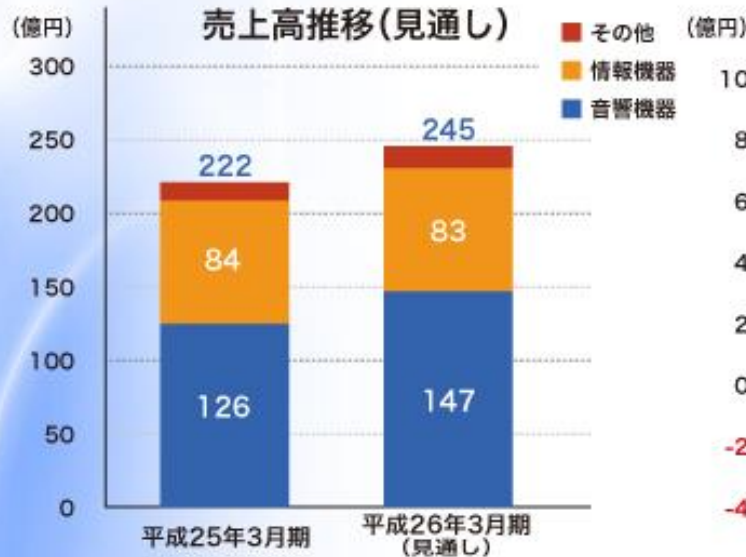
平成25年3月期

(単位：百万円)

	株式資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価差額 金	為替 換算 調整 勘定	その他の 包括利益 累計額 合計		
平成24年4月1日残高	6,000	306	2,259	△ 107	8,458	105	△4,773	△4,667	—	3,790
当期変動額										
当期純損失			△ 323		△ 323					△ 323
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株式資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△ 55	773	718	58	776
当期変動額合計	—	—	△ 323	△ 0	△ 324	△ 55	773	718	58	452
平成25年3月31日残高	6,000	306	1,935	△ 107	8,134	50	△4,000	△3,949	58	4,243

- 株主資本は、当期純損失等により324百万円減少
- その他の包括利益累計額は、円安に伴う海外子会社の純資産の増加等により718百万円増加
- 少数株主持分は、オンキヨーとの協業により58百万円増加

## 次期の見通し



- 音響機器事業は、音楽制作オーディオ機器を中心に事業を拡大
- 情報機器事業は、ストレージデバイス事業の構造改革を終え安定化

想定レート  
1米ドル = 95円  
1ユーロ = 125円